

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200457	事業の開始年月日	平成13年7月1日	
		指定年月日		
法人名	有限会社 横浜ソフトケアサービスセンター			
事業所名	フレンジィ本宿			
所在地	(241-0023)			
	横浜市旭区本宿町18-14			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9 名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成28年12月13日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月7日	

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者9名のこじんまりしたグループホームです。自立支援を進めながらの生活リハビリと規則正しくメリハリのある日常生活に力を入れ、大きな行事は年に数回程度計画します。自立支援として出来る事は些細な事でも自分でやって頂き個々の状況に合わせてお手伝いは出来る人で分担。生活リハビリは建物の構造を活かし階段の昇り降りを足の筋力維持の為に。日常生活は食事・お茶・おやつは全員でテーブルを囲み団欒を兼ね一緒に時を過ごし、それ以外の時間は好きな所で好きな事をして過ごす家庭的な共同生活。行事として入居者が楽しめる様な美味しい食事をお誕生日には食べたい物のリクエストを頂きお店を決定しています。その他寿司パーティーやケーキバイキングを検討中。バス旅行も過去2回実施。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年2月17日	評価機関 評価決定日	平成29年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は相鉄線「鶴ヶ峰駅」から徒歩約15分の、閑静な住宅街の一角にあります。民家を改装した市内で最初のグループホームとして、15年の年月が経過しています。建物は2階建てで1階にはリビング、キッチン、浴室などで、2階が入居者の居室となっています。法人は有限会社で、系列の通所介護(デイサービス)施設も隣接しています。

<優れている点>

ホームの防災訓練実施のお知らせを配布する取組みは、近隣住民との交流のきっかけともなっています。開所からの長い歴史のなかで地域との良好な関係はすでに築かれています。さらに広がるよう努めています。自治会の協力や理解を得て、ホーム周辺の環境改善にもつながっています。

<工夫点>

入居者の好物や嗜好品をよく聞きながら、外食の機会を多く設けています。ホーム周辺は坂道が多く、散歩は難しい状況ですが、ドライブで、外出を兼ねた月1回の外食は入居者の大きな楽しみの一つです。クリスマスにケーキバイキングを行ったり、寿司職人を呼んでの食事会など、食の工夫や取組みは特徴的です。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	フレンジィ本宿
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所に必要な事は何かを職員で話し合い年初に決定しリビング・更衣室・事務室に張り出しています。	毎年、事業所として目標とする理念を新しく掲げていますが、今年度は昨年度のものを新人職員に更に徹底させたいと考え、踏襲しました。職員は、入居者が、地域の中でできる限りの能力を活かし、自立できるよう支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ゴミ出しの時の挨拶や買い物・外食に使うお店をホームに近い場所で探したり避難訓練のお知らせをご近所に配布して協力を求めたり地域の一員として交流できるように努力しています。	地域に暮らすメンバーとして、長い歴史の中で培われた絆を大切にしています。ホームの様子を近隣に知らせる取組みとして、避難訓練の見学や参加協力を呼びかけるチラシを配布しています。近くの商店、飲食店も継続的に利用しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通し地域に向けて認知症の理解や支援方法を発信しています。入居相談の合った時には認知症を受け入れている他の施設や状況により考えることを進める助言を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	夜間想定避難訓練の時のホーム側の気づかない点などを意見交換で得た情報を基に改善や確認を行っています。	入居者、家族代表、自治会長、地域包括支援センター職員などの参加を得て、開催しています。提案された意見により避難訓練実施の案内チラシにホームの見取り図を加えるようにしています。昨年は事業所前の街灯設置が実現しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	グループホーム連絡会で市や区の担当者より情報を得たり生活支援課の担当者に相談したり協力関係を築くよう努力しています。	区生活支援課の担当者と密に連絡をとり、協力や助言を得ています。ホーム長は旭区・瀬谷区のグループホーム連絡会の会合にも出掛けています。地域包括支援センター職員との連携で、入居案内につながっている例も多くあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者の所在確認を徹底し玄関の施錠は基本的に行わない様になっています。日常生活の中で身体拘束になるような状況が発生した時第三者が見るとこう見えると拘束につながることを話すようにしています。	入居者は1階のリビングで過ごす時間が長くなりますが、2階の居室への移動、往復時に階段転倒がないよう職員は注意しながら見守っています。身体拘束の弊害を理解し、新人職員にスピーチロックのないようホーム長は注意を払っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入居者の観察を日々行い虐待が疑われるような時は職員で話し合い見過ごし事がないよう注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	必要に応じて活用を考えたり家族に相談して実践で学ぶ機会を得ながら支援できるように努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	面談の時に不安や疑問点を聞き説明を行い入居までの間は電話やメールを利用し理解・納得を図れるよう努力しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者や家族にはどんな事でも直接聞いて欲しいと言っているが言いにくい事は本社や区役所へ相談窓口がある事を伝えてあります。運営に反映させる努力をしています。	家族の来訪時には直接、意見や要望を聞くように努めています。ホームの玄関には苦情相談の窓口を知らせる掲示があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見を広く吸い上げ良い物は取り入れて行くよう努力をしています。年に数度行われるヘルパー総会で職員の前で社長自らそう発言しています。	管理者は職員の意見や提案を日常的に聞き、取り入れるよう努めています。法人内の介護職員が集まる「ヘルパー総会」が定期的に行われ、各事業所の意見交換などに社長は理解を示しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自が向上心を持って働けるよう環境等を整備していただけるよう努力しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本人の希望により研修等に参加することが出来るように努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	運営推進会議やグループホーム連絡会等で同業者との交流を持てるよう努力しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	慣れない環境下での不安を少しでも取り除けるようにこまめに声掛けを行いその心情を探るよう努力をし、不安な事や要望などを聞きながら信頼関係を作れるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面談でご家族の困っている事不安・要望を聞き良い関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居当日から声掛けを頻繁に行い観察しご本人・ご家族に必要なことは何か見極めるよう努力をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の手伝いを通してできない人の分をできる人が助け職員も共に行いながら共同生活者同士の関係を築けるよう努力しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	可能な限りご家族にも行事の外出やバス旅行に同行して頂いたり、運営推進会議に参加して頂き共に本人を支えて行く関係を築くよう努力しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人からの電話や面会の要望などいつでも対応できるよう準備をしています。手紙で近況を知らせてくる事もあります。	古くからの友人が訪ねてくる例もあります。家族と一緒に墓参に出かける入居者もいます。職員は兄弟からの手紙を取り次ぎ、投函を手伝います。入居者の以前からの好物を聞き、外食やおやつメニューの参考にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの出来ることできないことを把握し負担にならない程度の手伝いを利用者全員にして頂く事により利用者同士が関りを持ち支えあえるような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて相談や支援を継続したり提供できるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや意向を把握するよう努めご家族とも相談し何がここでできる最善なことかを考えて検討しています。困難な場合もここでの生活に何が最善かを本人本位に考え検討しています。	職員は入居者それぞれの思いに耳を傾けています。思い出、趣味、生活歴、嗜好品などを聞き出すよう努めています。意思表示の難しい人にも寄り添い、表情や仕草から読み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常生活の中の会話や思い出話を聞くことにより生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活の中で常に観察することにより心身状態や有する力などの現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族や職員と話し合い出来るできないを把握して現状に即した介護計画を作成するよう努めています。特に自立支援に重点を置きできる事は少しでも長く続けて行かれるよう介護計画に反映させるよう努めています。	日々の生活の中でできる能力を活かし、継続していけるよう支援しています。6ヶ月ごとにケアプランは見直しますが、変化があった場合にはその都度策定します。入居者の日常的な小さな動作も計画の中に落とし込むように努めています。	職員間の連絡や伝達事項をメモ掲示だけでなくノートに記載するなど、情報を共有する方法の工夫も期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の行動記録を活用し日々の変化を職員同士共有して介護計画へ反映させることができるよう努めています。気づきや工夫は職員同士話し合うことにより見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者は日々の生活に常に変化が見られる為その都度柔軟に対応していけるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援して行けるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々の状況に応じ外来受診したり入居前からの往診医をお願いをして来ていただいたり本人や家族の意向に合わせ通院して頂いたり適切な医療を受けられるよう支援に努めています。	入居前からのかかりつけ医を利用するか、事業所の往診医を利用するかを本人および家族の意向で決めています。通院は基本的に家族の対応で行っていますが、都合が付かない場合や緊急時などは事業所に対応する体制ができています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護は利用していない為かかりつけ医に直接情報や気づきを伝え相談して適切な受信を受けられるよう支援に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が極力短くできるように医療関係者と情報交換や相談をして関係づくりに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に本人や家族と話し合い事業所でできることを説明している。家族へは早めに状況を伝えるよう努め、かかりつけ医からの情報を話したりして今後の方針を共有し関係者とともに支援できるよう取り組んでいます。	法人本部の方針で看取りは行わないことになっており、入居時に重要事項の内容と共に丁寧に説明しています。救急搬送などされた場合に備え、重度化した時の方針を早いうちに話し合い「延命治療拒否事前指示書」に署名し同意を取っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応はヘルパーマニュアルに明記されていて更衣室においてあります。定期的に消防署の講習も職員はうけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間想定避難訓練を毎年行ってご近所の方々の参加もあり事業所の中の様子を徐々に見て頂いています。消防署からの助言や避難についての相談もして協力体制を築けるよう努めています。	非常時の持ち出し袋を昼間は1階に夜間は2階に置き、備えています。災害時には自治会の協力を得られる体制になっています。事務所に火災受信機や消防署と直接つながる火災通報専用電話を設置し、壁には緊急時の連絡網を貼っています。	備蓄品が事務所前スペースに置かれていますが、品目や数量・消費期限などが把握されていません。一覧表を作り、食品はローリングストック管理ができるような改善が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格や特徴を見極めその人に合った声掛けを心掛け、職員同士で気付いた事を話し合ったりして誇りやプライバシーを損ねないよう努めています。	1階トイレがアコーディオンドアになっており、使用時に中が見えないよう特に注意しています。利用者の了解を得て2階の居室は空気を入れ替えるため、普段はなるべく開けるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で常に自己決定をして頂けるような声掛けに努め思いや希望は日常的に表せるよう働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	部屋からリビングに出てくるのに時間がかかる人・食事をゆっく食べる人・入浴を時間かけて入る人などその人の特徴を把握し余裕が持てるよう早めの声かけを心がけています。希望があれば添えるよう準備をして支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る服は本人に選んで頂けるように、それが出来ない人には本人の希望や今までの様子などを考慮し職員が準備したり髪形を整えたりできるように支援しています。理美容の時には本人がリクエストしています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むきや食器拭き収納・テーブル拭きなどをできる人に手伝って頂き下膳は各自で行い車椅子で出来ない方の分は近くの方が手伝ったりしています。	普段の食材は業者に宅配を頼んでおり、職員が輪番制で作っています。利用者の得意なこと、出来ることを見極めて生活に参加できるよう、役割分担をしています。月に1度は利用者が座りやすい店などを探して積極的に外食しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食の細い方にはバランス良く全体的に量を減らし痩せている方には少量ずつ増やしなるべく全部食べていただけるように、お茶の飲みの悪くなった方には好みの物を出して十分な水分量を確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯磨きをして頂いています。声かや介助が必要な方には職員が見守りながらできない所をお手伝いさせて頂いています。訪問歯科にも定期的に半年に1回程度は見て頂き痛みや違和感がある時にはすぐ連絡し着て頂くよう努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	リハビリパンツを使用している人も定期的に声掛けを行いトイレに行きなるべく排泄はトイレでできるよう支援に努めています。	自立の人は排泄記録を付けて個別に排泄リズムをつかみ、適度な間隔で声掛けをしています。また、リハビリパンツの人にも起床時間からその人に合わせた声掛けをしてトイレに誘導し、状態を記録しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	極力下剤の使用を避け甘酒や乳酸菌飲料を提供することにより排便を促しています。時にはお腹のマッサージを行うこともあり予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の入浴時間を把握し焦らせることなく本人のペースで入浴できるよう支援しています。午前に入りたくなければ午後にしたり明日に振り替えたりと状況に合わせて入浴を楽しんで頂けるよう配慮しています。	入浴時間の長さは個人によって違うので「長湯」にも対応するように努めています。同性介助の要望なども確認し、希望に沿えるように配慮しています。入浴剤で変化をつけたり、ゆず湯・しょうぶ湯など季節感を取り入れるなどして楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食事が終わるとすぐ居室に入る方や食器拭きが終わって昼寝するために居室に行く方と自由にして頂き体調に合わせて休息をとって頂いています。夜間は安眠ができるよう照明や声掛けなどに気を使い安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書は職員全員が自由に閲覧できるように事務所に置いてあり内容や時間に変更になった時には服薬チェック表を変更し間違いが起こらないよう気を付けています。薬の変更があった場合は職員同士情報交換を行い副作用などに注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人から希望があればできる限り希望に添えるよう努め、日常生活の中で得意な事を手伝って頂いたり気分転換と一緒に買い物に行ったりご家族と外食したり、誕生月にはリクエストを聞き皆で外食に行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	本人からの要望があればできる限り要望に沿えるよう努めています。職員が付き添っていらっしゃるご家族にお願いしたりボランティアの方と散歩に行ったりと協力して行えるよう支援しています。	坂が多く危険なため現在は散歩のための外出は控えています。日用品など欲しいものがある時は、職員と車でドラッグストアまで買い物に行く事もあります。墓参りや外食など家族と自由に外出しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望があればお金を所持して頂いたり、そのお金を持って買い物に行ったりと支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話も手紙のやり取りも自由に行えるようになっていきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には必要ないものは置かず移動しやすくしています。窓のカーテンを全開にして光や景色を取り入れやすくしています。小学校のグラウンドが見え季節感を感じることができます。	リビングにはレクリエーションで作成した認知しやすい大きな文字の手作りカレンダーがあります。体調が悪いときに2階個室で寝ていると職員の目が届きにくいいため、リビングにあるソファベッドを利用しています。テーブルに小さな花を置き、季節を感じられるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテーブル席とソファを置き自由に気分によって席を変えることができ2階廊下にもソファがあるので一人静かになりたいときは利用できるようになっていきます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時本人が大切にしている物や思い出の品を持って来て頂き自宅と同じように過ごして頂けるよう配慮している。本人の状況により模様替えをする時はご家族と相談し考えています。	エアコンとクローゼットは備え付けです。ベッドは自分のものを使うようになっています。仏壇のロウソクなど、火を使うもの以外は持ち込む物に特に制限は設けていません。居室の水拭き・床掃除などはできる限り入居者が行うようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物の構造上階段の幅が狭く両手で手すりを掴む事ができる為伝い歩きや手引き歩行の方も一人で階段を昇り降りすることができます。		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 フレンディ本宿

作成日： 平成 29年 4月 3日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	連絡・伝達事項は発生した時メモにて表示し解決したら破棄している。実施した事が分かるように保存した方が良いのではと助言を受ける。	職員全員に伝わり実施する事ができるようにする。	職員間で話し合いをして良い方法を検討する。	12ヶ月
2	13	備蓄品の消費期限は箱等に大きく表示してあるが一目でわかるような一覧表を作成した方が良いのではと助言を受ける。	ローリングストック管理を効率良く行っていく。	職員間で話し合いをして良い方法を検討する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月